

## 【学会見聞録】

### 第36回基礎老化学会に参加して

樋上 賀一

東京理科大学薬学部生命創薬科学科

大阪で開催された基礎老化学会に、本学会に初めて参加する新任助教、ポスター発表する学生3名と私、計5名で参加した。その学会で感じた点を率直に記したい。まず、学会場となった大阪大学中之島センターは大阪駅に近くロケーションが非常に良かった。そのためか参加者数が例年に比べてやや多く感じた。また、老年病学会など関連学会との合同開催年は学会場が狭いことが多いが、広々とした会場で、非常にリラックスした雰囲気の中で学会にのぞめた。大隅良典先生（東工大）と鍋島陽一先生（神戸先端医療センター）という大物2名の特別講演、日韓合同学術シンポジウムおよび市民公開シンポジウムと学術的にも非常にレベルが高く且つバラエティーに富んだ内容が企画されていた。私自身スケジュールの都合上、残念ながら全ての企画に参加できなかったが、非常によく企画された大会であった。また、懇親会にも特別講演の先生や韓国からの招待者、市民公開シンポジウムの演者の先生方も出席され、例年になく盛り上がった。これらは、大会長である長崎大学神経形態学講座教授、森望先生の人脈の広さと教室員のご尽力に加え、森先生のお人柄によるものと、感謝の一言に尽きる。

一方、いくつかの問題点を感じた。一つは学会長の地元でない大阪で、長崎大学の森先生が大会長を引き受けざるを得なかった点である。それも地方都市ではなく、開催地は大阪である。関西地区の学会員が少ないことが図らずとも露呈した形となった。この学会の準備のために、森先生や教室員の方が大阪と長崎とを何度往復して準備されたのか、自分ならとても大会長をお引き受けできないと感じた学会員も多かったのではなかろうか。次に、一般口演もポスターもレベルの高い発表が増え、また質疑応答も活発に行われていたが、質疑においては私

よりご年配の先生方の活躍が目立った。これは逆に我々の世代を含めさらに若い世代の先生方の参加が少ないことに他ならない。韓国では、今回、招待されてきた研究者のように様々なテーマで研究する若い世代が大勢育っているのと対照的に感じた。もう一点、多くの韓国の先生方を招待しているにもかかわらず、時間的な制約もあり、議論があまり活発にならなかった。韓国側との関係があるので、簡単ではないと思うが、個人的には招待する人数をもう少し少なくするか、時間的な制約の少ない基礎老化学会単独開催年に招待すべきではないかと考える。

最後に、今後の学会の発展に示唆に富んでいると感じたので、今回初めて学会に参加した者の感想を以下に記す。老化のメカニズム、老化に関係する基礎疾患やその病態生理の解明、及び治療を目指した基礎的研究を主とした基礎老化学会に初めて参加し、比較的小規模な学会だからこそ焦点を絞った深い議論が繰り広げられていた点が非常に印象的であった。大規模な学会と比べ、自身と関連深い研究課題の多くを会場移動に慌てることなく、網羅的にじっくりと勉強でき、非常に有益であった。学会参加者には、学会場では非常に精力的で、また懇親会では気取らない先生方が多く、初参加でも溶け込みやすい雰囲気、いわゆるアットホームな素晴らしい学会と感じた。ただ、基礎的要素が強い学会であるにもかかわらず若手が少なかったことを残念に思った。若手の活躍を願い奨励賞等を設けているため、学生も積極的に参加するようになると更に活発な学会になるのではないだろうか。

以上、理事会でもいつも問題になるが、学会員、それも若手の学会員の増員が急務と感じた大会でもあった。